



三菱商事復興支援財団

2013－2014

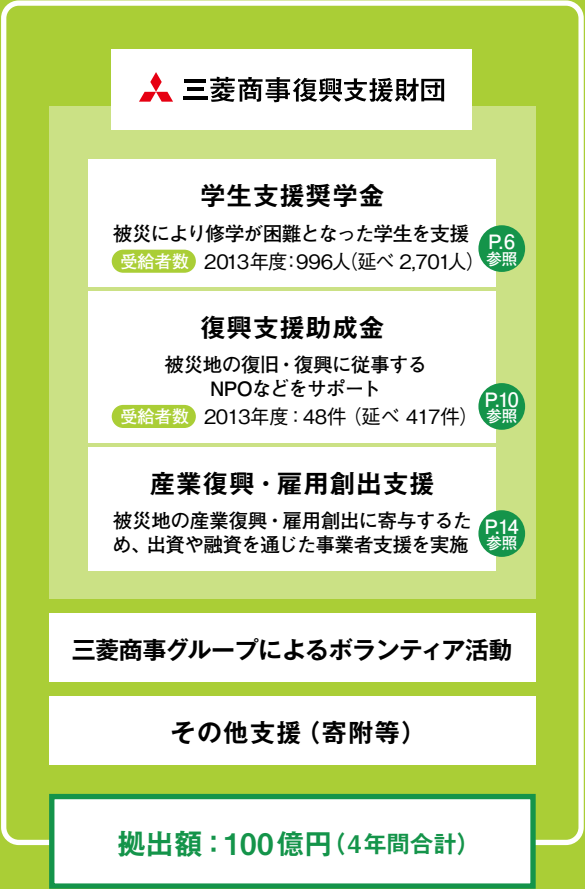
希望のいしずえ

この冊子は三菱商事復興支援財団の2013年度の活動報告です。三菱商事復興支援財団では、大学生への奨学金の支給、被災地で活動するNPOなどへの助成、被災地の事業者を対象とした産業復興・雇用創出に対する支援を行っています。これは、被災地の未来を担う若者や、被災地の継続的な復興、経済再生の基礎となる地域産業への、いわば“被災地の未来に対する投資”。「希望のいしずえ」という言葉には、三菱商事復興支援財団による支援が被災地での希望を生む根幹になってほしいという願いを込めています。



三菱商事復興支援財団の活動

三菱商事は、2011年3月11日の東日本大震災発生直後から復興支援活動を迅速に、継続的に展開。被災した地域の状況やニーズに合わせて、活動内容を変化させています。2012年春に設立された公益財団法人 三菱商事復興支援財団では、学生支援奨学金と復興支援助成金を給付。また被災した地域の力強い復興を目指し、地元の金融機関などと協働しながら、産業復興・雇用創出支援を行っています。水産業や農業など、これまで地域を支えてきた産業の再生を支援すると共に、新たな事業の立ち上げに取り組んでいます。



三菱商事復興支援財団 2013 – 2014

2	希望のいしずえ ——この言葉に込めた私たちの願い、	42	Our Partners 北日本銀行／石巻信用金庫／ 宮城復興局気仙沼支所
6	学生支援奨学金	44	Topics 2012年度 産業復興・雇用創出支援先のご紹介
10	復興支援助成金		
14	産業復興・雇用創出支援	49	資金循環までデザインした、 支援の新しいかたち ——なぜ寄附ではなく、出資や融資なのか ・産業復興支援先同士の新たな動き
16	Inside Story #1 三浦商店		
20	Inside Story #2 キャニオンワークス	50	Facts & Figures ——2013年度活動データ
24	Special Interview みちさき	54	2013年度財務報告 ——貸借対照表
28	Tohoku Recovery Support Projects 気仙沼産業センター／ゼライス／ 海楽荘／八木澤商店／駅前ストアー／ 協働マネジメント／宝来館／ ヨシエイ加工／村上商事／GRA／ カメラマン・プロダクツサービス／ あんしん生活／什一屋／長根商店	55	『三菱商事復興支援財団』概要



学生支援奨学金

三菱商事復興支援財団では、被災により修学が困難となった学生を支援するため、学生支援奨学金制度を設けています。国内の大学生を対象に、月額10万円を支給（1年間）。2013年度は187校の996名へ、2011年度からの累計で2,701名に奨学金を給付しました。夢の実現に向かって歩む、奨学生の声をご紹介します。



獣医師として 復興に寄与していきたい

岩手県宮古市 在学中（大学6年） **市村 鋭**さん

東 日本大震災の津波により自宅を失い、地域も壊滅的な被害を受けました。しかし幸いなことに家族は全員無事で、自宅の再建に向け日々がんばって生活しています。三菱商事復興支援財団の奨学金を受けることができ、経済的な負担が軽くなり、集中して大学で学ぶことができています。

大学では獣医師になるための講義・実習などを通して、専門的な知識とともに、公衆衛生、食品・環境衛生、小動物臨床、自然保護などの獣医師の多岐にわたる社会的な役割について学んできました。幅広い多様な社会的役割を担っている獣医師ですが、県によっ

ては公務員獣医師の不足が問題になっています。

そのため、私は公務員獣医師として公衆衛生分野、食の安全を守る仕事に携わっていきたいと考えています。獣医師は人と動物、そして地球環境の懸け橋になれる職業であると思います。そして、被災地の復興のために、食の安全、健康の確保などから、安心して暮らせる地域づくりの手助けまで、さまざまなことができると考えています。現在は大学で獣医学を学んでいますが、一日も早く獣医師となり、獣医師という役割を通して復興に貢献していきたいです。



体育教師になり、 いつか父親のような 指導者に

宮城県石巻市 在学中（大学2年生） **阿部 翔人**さん

私 は東日本大震災で、地震、津波の被害で自宅は全壊の被害を受けました。

小学生から続けている野球を続けるため、また自分の夢を叶えるために日本体育大学に入学しました。大学では、体育教員になるための知識を学んでいます。野球部には、北は北海道から南は沖縄まで250人の部員が集まっており、選手間で激しいレギュラー争いを繰り広げながら、技術の向上や野球に対する考え方、知識を学んでいます。

自分の夢は体育教師になって野球を指導することです。その理由は、父親が教員で野球部の監督として指導しており、幼い頃からその姿を見て、いつか父のような指導者になりたいという気持ちが芽生えてきたこと、また野球を通して学んだこと、経験したことを指導したいと思ったからです。

今後はその夢を叶えるべく、大学での生活を充実させていきたいと思います。



2012年春の甲子園では石巻工業高校の主将として選手宣誓を行った



宮城の医療に 貢献していきたい

宮城県仙台市 2013年3月卒業 **鈴木 オリエ**さん

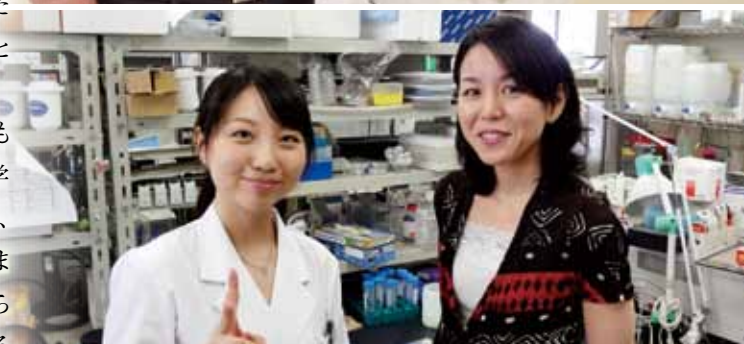
私 は、父方母方両方の祖父母宅を津波で失い、父の会社も半壊して父は仕事が全くできない状態となりました。

仕送りもなくなり、病棟実習が多忙でアルバイトを続けることも難しく、苦悩していましたが、奨学金をいただくことができたおかげで不自由なく実習を修了することができました。

また、震災以前より続けていた基礎医学の研究にも集中できたことで、一定の成果をあげることができ、学内で医学部長賞を受賞することができました。さらに、研究でアメリカの大学に短期留学にも行くことができました。このような大学での経験は、資金面の問題から三菱商事復興支援財団の奨学金がなければ諦めざるを得なかったため、三菱商事の皆様には本当に感謝しています。

現在は、宮城県南部の病院で研修医として働いています。津波の被害はなかったところですが、福島の大変な危険区域から避難してきた患者さんや仮設住宅に住んでいる患者さんも多くいらっしゃいます。休日はほとんどなく忙しい毎日ですが、患者さんの役に立てていることに幸せを感じています。

今年、学生時代の留学を評価いただき、宮城県で



上：ニューヨークの海外研修でDr.Ramaniと一緒に
下：大学6年生時に横浜市立大学医学部循環制御医学教室で
横山詩子准教授と一緒に

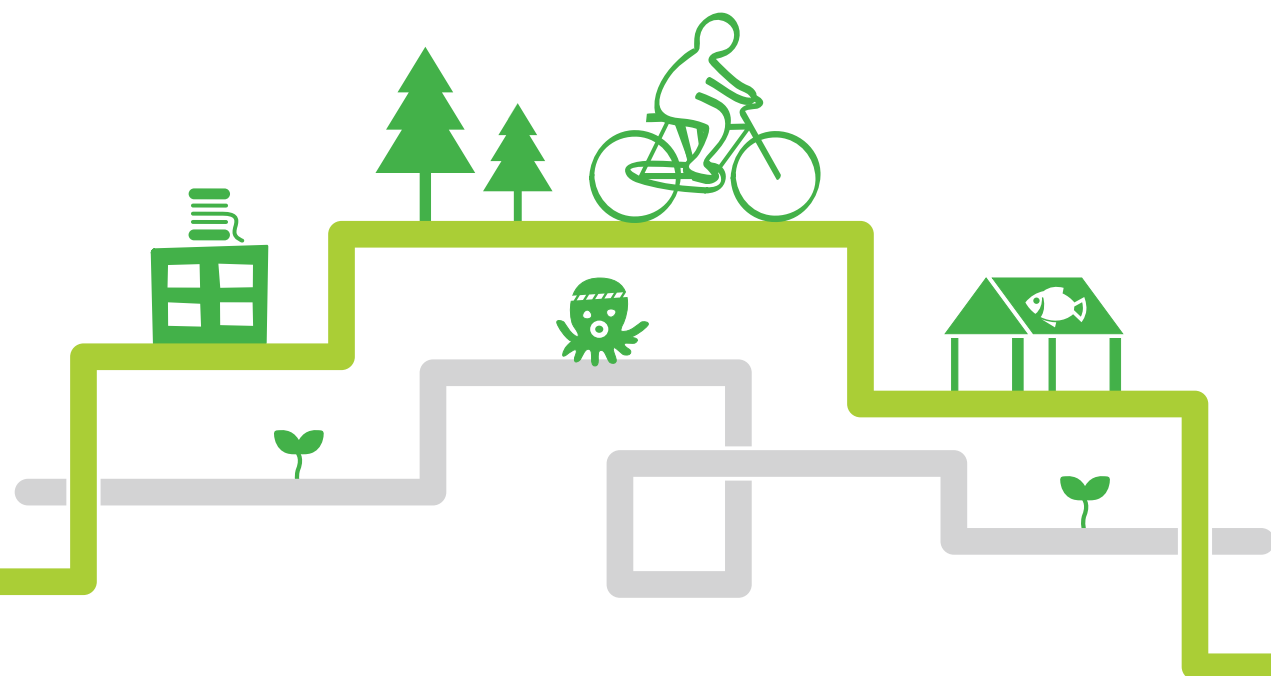
実施している研修医海外研修に採用され、ニューヨークで臨床医学の勉強をすることができました。将来は、大学や今回の経験を生かしながら、宮城の医療に貢献していきたいと考えています。



復興支援助成金

三菱商事復興支援財団では、被災地で復旧・復興支援に携わるNPOなどの非営利団体をサポートするため、2013年度は48案件に対し、総額1億2,000万円を助成しました。これら助成金は、就労支援や雇用創出に繋がる事業など、さまざまな活動に活用されています。2013年度の助成先の一部を紹介します。

(2014年度は公募せず)



被災地で 自伐林業家を育てる

土佐の森・救援隊

山林所有者が、副業として自ら林業経営や作業を行い収入にしていくな自伐林業、による仕事づくりを支援。活用されていない山林も多い、岩手県や宮城県の被災地域で、道具の使い方から間伐材および未利用材の収集運搬まで実地研修を行っています。



理事長 中嶋 健造さん

この3年間で、自伐林業で自立する方も増えてきました。海をも育む、持続可能な環境共生型林業を、被災地から全国に広げ、日本の森を元気にしていきたいと思っています。



岩手

「魚ではなく釣竿を」と 「大槌刺し子」を事業化

テラ・ルネッサンス

単なる寄附ではなく、事業化を推進。具体的には、大槌町の女性に裁縫製品を作る「刺し子さん」になってもらい、プロのデザインを基にした材料を使ってコースターやTシャツなどを制作し、全国で販売しています。技術やノウハウを提供し、継続的な事業となるようサポートしています。



吉野 和也さん

過疎や高齢化といった被災地の状況は、日本が抱える課題の縮図。まずは事業の独立採算を実現し、ゆくゆくはこのプロジェクトが日本の過疎地域のビジネスモデルの一つになればと思います。



Photo : t.koshiba



南三陸が注目を集める 一助であり続けたい

南三陸復興ダコの会

南三陸町のゆるキャラ「オクトパス君」を軸に、キャラクター商品を製造・販売。タコ型文鎮やせんべいなどの商品ラインアップを広げるとともに、学べる工房創設など将来を見据えて人材育成にも注力しています。



事務局長 阿部 忠義さん
南三陸町の水産業・農業を支える脇役として、キャラクタービジネスを息の長い事業に成長させ、町を注目してもらおう一助であり続けたいと考えています。



福島の子どもたちに 安心して遊べる屋内公園を フローレンス

仕事と子育ての両立を阻む病児保育問題の解決に向け、訪問型の病児保育サービスを提供するために設立されました。震災後は福島で、放射能を気にせず安心して子どもが遊べるよう屋内公園を運営しています。



マネージャー 今給黎 辰郎さん
被災地の子どもの遊び環境に関するニーズは変化しています。住民のニーズや自治体の取り組みを見ながら、被災地での子育てに寄り添った支援を続けていきます。



宮城

人間味のある 社会を目指して

日本カーシェアリング協会

多くの自家用車が失われた被災地で、カーシェアリングを運営。個人利用だけでなく、仮設住宅から病院への送迎ボランティアにも活かすなど、車を軸とした助け合いの仕組みづくり、地域コミュニティの再生に取り組んでいます。



代表理事 吉澤 武彦さん
活動を通じてつくっていききたいのは、人間味のある社会。人と人のつながりのある、文化度の高い社会をつくる手伝いができればと思っています。



福島

被災者の 自立を応援

相馬はらがま朝市クラブ

被災者自身が地域を元気づけ、コミュニティを再生しようと朝市を開始。現在は朝市のみならず、買い物支援、雇用を生み出す事業開発や人材育成など多岐にわたる活動で地元を盛り上げています。



理事長 高橋 永真さん
私たちは単に支援するのではなく、自立を応援しています。次世代にとって生きがいのある、希望を持って頑張ろうと思える、そんな町に相馬と福島をしていきたいと思っています。



産業復興・雇用創出支援

三菱商事復興支援財団では、学生支援奨学金、復興支援助成金に加え、被災地の経済復興に向け、産業再生や雇用創出に寄与する取り組みを展開しています。地元金融機関などと協働し、事業の再建や新規事業の立ち上げを目指す事業者への出資や融資を実施しています。



観光拠点として
地域活性化を

人は一人では
生きていけない

新天地で再起を

折れなかった心



このままでは
終われない

気仙沼のブランドを守り、
水産業全体の活性化に



奇跡的に残った
伝統の味



地域の方々に
愛される店に

次世代に
伝えなければ

想像を上回る津波が工場を飲み込んだ

その日、洋野町では朝から雪が降っていた。駅前では除雪車が稼働し、三浦商店の加工場では8時から作業が始まった。今日も平穏な一日が繰り返される、そんな三浦の日常を東日本大震災が揺さぶった。

しめさばなど海産物の加工品を扱う三浦商店の工場は2階建て。約400平方メートルある1階で魚の仕分けをし、2階の加工場で作業員の手によって一つ一つ商品が製造する。当時、加工場には40人近い作業員が詰めており、揺れを受けてすぐに降りてきた。

「洋野町は過去にも三陸沖地震やチリ地震による津波被害を受けてきました。その意識はみんなに刻み込まれている。すぐに津波に備えて避難させたんです」

高台への迅速な避難により従業員は無事だった。だが、津波は堤防を乗り越えて、工場を突き破る勢いで1階を飲み込んだ。それは過去の津波被害を知る三浦の想像さえ上回るものだった。津波で打ち上げられた漁船が工場に衝突するさまを、高台から見守るしかなかった。

「感情がまるで湧かなかった。何かの間違いじゃないか、とぼうぜんとしていた」

海水が引き、動けるようになった翌日に避難所を回った。当時、2人の子どもは留学などで東北を離れており、洋野町にいたのは妻だけだった。だが三浦は

妻だけでなく、地元の人々の安否が気掛かりだったという。海を間近に望み、普段から危機意識を共有してきた洋野町の住民は皆、同じ共同体の仲間という意識があった。妻と再会してすぐ、地元の被害を確認して回った。

人情味のある三浦は、町を代表する産業の事業家としてのみならず、地元の核となる人物の一人だ。以前から取り引きのあった岩手銀行も、その三浦が洋野町の復興には必要だと感じていた。震災から10日後には担当者が訪れ、「三浦さん、もう一度やれますよ」と元気づけた。

「その言葉に背を押された。再建の決断には、洋野町の水上市宏町長をはじめ地元の応援も大きかった。それに工場も全損ではなく、2階の生産機器は無事でした。従業員も同じ頃に集まってきてくれた。彼らの顔を見て『みんなと一緒にまた工場をやれるかもしれない』と思ったんです」

波が引いた後の工場は、津波による砂と泥で埋まり、商品用に仕入れた原魚が散乱する混沌としたありさまだった。操業再開の見通しも立たない中、集まってくれた従業員と始めた復旧作業は実に3カ月に及んだ。

Inside Story #1 | 三浦商店

こだわりの味を より多くの消費者へ

度重なる津波の被害を受けながら復興を遂げてきた岩手県洋野町。その町と海と共に復興を果たそうと、工場を再建した水産加工業者がいます。地元や取引先、従業員など多くの期待を受けて決断したという株式会社三浦商店の三浦勝年社長に、再建に至った経緯を伺いました。

全国の取引先が「待ってるよ」と言ってくれた

復旧と並行して、三浦は秋までの事業再開を目指して奔走した。9月から三陸でのサバの漁期だ。加えて、全国の取引先から寄せられた期待もあった。

「売場の棚のスペースは決まっていますから、商品を出荷できなければ他社の商品が埋めるだけ。それを取り返すのは至難の業です。ですが、お取引先の中には、『棚を開けておくよ』『待ってるよ』と言ってくださるところもいらっしゃったのです」

三浦商店は、三浦の父が創業。しめさばは三浦が2代目社長になってからのヒット商品だ。独自の製法で

加工されたしめさばは、酢の絶妙な締め具合と、身の中央のとろりとした脂の乗り具合から「とろしめさば」とも呼ばれ、震災以前から全国で流通してきた。しめさばにする場合、脂が乗り過ぎても、少な過ぎてもいけない。それに最適なのが三陸で水揚げされるサバだという。

「そのサバが獲れる海に、恨むって感情は湧かないんですよ。海とはこれまでもこれからも付き合っていく、いわば運命共同体です。だから工場も、海のそばの前と同じ場所から移動する気は全くありませんでした」

事業再開への思いを後押ししたのが岩手銀行だ。工場の再建費用には岩手県のグループ化補助金を受給できることとなったが、4分の1は自社で負担す



自慢の「しめさば」は企業秘密のこだわりの製法で一つ一つ手作りする



再建された工場外観（上）
製品の特徴を語る三浦社長



る必要がある。三浦商店は震災以前からの借入れがあり、震災による被害総額も3億円以上という甚大なものだったが、地域の復興支援を重視する岩手銀行は「三浦社長の復興に向けた強い思いとビジョンをサポートしたい」と1億円の追加融資を決めた。

資金繰りにめどが付き、工場は予定通りの9月に再建を果たした。すぐに東京・築地や関西を中心に全国から注文が集まったが、失った販路もあった。冬になり、冷蔵工場の床下の目に見えない部分に残っていた津波による海水が凍結し、追加工事が必要になった。2011年度、2012年度と、震災前に比べ厳しい業績が続いたが、岩手銀行の紹介により2013年には当財団が支援したことを機に、原料となる海産物の買い付けや雇用を拡大した。

「今は雇用の枠を70歳の方まで広げて、全国からの注文に応えています。おかげさまで引き合いが強く、

ネット販売も好調。高く評価していただいているしめさばを、ゆくゆくは洋野町のブランド商品としたいんです。ユネスコの無形文化遺産に和食が登録されたように、ひいては世界に洋野町のしめさばを味わってもらいたい」
そう夢を語る三浦の目は、海の向こうを見つめていた。

（敬称略）

株式会社三浦商店

設 立	1966年5月17日
所 在 地	岩手県九戸郡洋野町種市1-137-82
従 業 員	36名
当財団からの投融資額	2,000万円
当財団の主なパートナー	岩手銀行

岩手県内随一のサバの取扱量を誇る水産加工事業者。津波で事務所が全壊し、工場も浸水するなど甚大な被害を受けた。支援を受け、雇用を増やして生産拡大を目指す。





Inside Story #2 | キャニオンワークス

福島へ帰るまでの 様々な支え

福島第一原発から約9kmの警戒区域内で被災し、創業の地・浪江町を否応なく離れることになった有限会社キャニオンワークス。操業再開、福島への復帰を後押ししたのは納入先の社長はじめ様々な支えでした。それはどんな内容だったのか。半谷正彦（はんがいまさひこ）社長に伺いました。

「御社はうちにとって大切なパートナー」

「震災で創業の地を離れざるを得なくなりました。でも、納入先や避難先で励まされ、勇気付けられて、再開を決意できました」

当初、半谷の会社は、伯父の貞夫が東京で立ち上げた登山用具を中心に扱う「マウンテンダックス」というブランドのバックパックを縫うなど、その製造を担っていた。半谷はその後、車の座席シートなど事業を拡げていたところで被災した。

「あの日は当時3歳だった息子が妙にムズカリ、あやしていると携帯の地震速報が鳴ったんです。それから襲って来た揺れは立ってはいられないもので、息子を守るのに精一杯でした」

幸い社屋は無事で、従業員にも怪我はなかったが、余震がひどく、自宅近くの観光施設の駐車場に避難した。ベトナムからの研修生を含む従業員19人、半谷の家族らと親戚の総勢33人だった。

当初は1～2日で帰れると思ったが、翌朝の防災無線で福島第一原発の放射能漏れの恐れを指摘され、国道114号線を西へ避難するよう指示された。

東京の伯父がペンションを手配してくれ、車を5台連ね、一路猪苗代へ。途中、高校の同級生宅で炊き出ししながら4日目の夕方ようやく会津若松に到着。しかし安堵したのも束の間、被曝スクリーニング検査を受けるのに寒空の下、3時間待たされる。目的地到達は結局午後10時となった。

地震に怯えるベトナム人研修生だけでも迎えに来てもらえないものか、と納入先の田島縫製へSOSを発信すると、翌々日の早朝、迎えに来てくれると同時に救援物資が届いた。その御礼に半谷が群馬県千代田町を訪れると、何と倉庫が空いている。ここを借りられないものか打診してみると、「御

社はうちにとって大切なパートナー。できるだけことはさせて欲しい」と社長が即断即決で許可してくれた。お陰で仮住まいとはいえ、3月半ばという驚異的なスピードで操業再開へ歩み始めた。

納入先の社長に大切なパートナーと言わしめたもの。それは日頃から納入期限を厳守するなど半谷の律義で実直な性格だった。



新工場にはコンピュータ制御による最新の自動裁断機を導入した

「地域貢献し、支援頂いた方々への感謝を表していきたい」

この間、伯父の尽力で茨城県つくば市に8世帯分のマンションが確保できた。半谷の一行は、茨城～群馬間を毎日往復4時間かけて通勤した。それを見かねた田島縫製の早川智常務は隣接する明和町の恩田久町長にその事情を説明した。すると今度は町長の号令一下、公民館が開放され、布団まで用意された。つくばには週末に帰るだけで済むようになり、2011年9月には売上げを震災前の3分の2まで回復させた。

そして2012年12月、福島に帰る決意をする。福島

に家族を残し、単身で勤務していた従業員の「故郷に戻りたい」との声を受けて決断した。「浜育ちは浜に帰りたい」という一念で、いわき市に工場を建設するため土地を確保した。キャニオンワークスは、半谷の父が立ち上げた会社だが、多大な投資も伴うだけに、「息子が言わなかったら、福島には戻らなかった」と語る。移転を決めると同時に「責任を持って」と社長を譲り、会長に就任した。



車両用座席シートやダイビングスーツを製造する第1工場での作業の様子



海外研修生に対応し、工場内の5S運動の掲示には日本語、英語、ベトナム語が並ぶ（左）。2014年4月11日には完成式典を開催、社員全員で記念写真を撮影した



2013年10月に造成開始、12月に着工し、いわきの新工場は2014年春に完成した。約1万平方メートルの敷地に2棟の工場が立つ。第1工場では、車両用座席シートやダイビングスーツを製造し、第2工場では「マウンテンダックス」などのアウトドア用品を中心に造る。これまでは施設が手狭なため、依頼を受けた仕事を断ることもあったが、新工場の竣工により、取り扱う品目もカフェ用のパラソルや業務用保冷ケースなど順調に増えつつある。

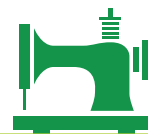
「お陰様で、この4月からようやく新天地いわき市に自社工場を構えられました。浪江町商工会が、グループ化補助金や企業立地補助金を紹介してくださいました。またメインバンクのあぶくま信金には金融支援のほ

か、三菱商事復興支援財団を紹介頂きました。もちろん田島縫製、明和町のご厚意には感謝の一語に尽きます。父が築いてきた会社と社員を守り、安心感のある製品を届けて事業を継続していきたい。将来的には浪江の工場も再開できればと思います。福島の雇用創出に微力を尽くすことで地域貢献し、支援頂いた方々への感謝を表していきたい」

（敬称略）

有限会社キャニオンワークス

設 立	1984年5月1日
所 在 地	福島県双葉郡浪江町大字川添字佐野47番地
従 業 員	37名
当財団からの投融資額	5,000万円
当財団の主なパートナー	あぶくま信用金庫
福島県浪江町で縫製工場を運営していた事業者。原発事故の影響で、群馬県の取引先の工場を間借りして臨時操業。財団は福島県いわき市での新工場設立を支援。	





Special Interview | みちさき

新たな農業モデルで地域復興の “道先”案内人に

農業生産法人 株式会社みちさきの菊地守社長は、仙台の沿岸部で10代以上続く農家。しかし、東日本大震災の津波で自宅も田畑も失いました。失意のどん底から立ち上がり、養液栽培という新しい農法で、農業による地域復興を目指す菊地社長に、その決意と夢を伺いました。

事業再開へ背中を強く押した、“地元との共存共栄”の精神

——震災前はどのような取り組みをしていたのですか。

宮城県農業短期大学を卒業後、茨城県で1年間修業した後に家業の農業を継ぎました。2004年には、六郷アズーリファームを起業。ラジコンのヘリコプターで農薬や肥料を散布する仕事を請け負ったり、周辺農家50軒と協力してスーパーマーケット7店舗に地場野菜を出荷できる体制を整えるなど、順調に事業を進めていたところで被災しました。

——震災の日のことをお聞かせください。

あの日は、最初の揺れで87歳になっていた祖母を守りながら、ラジコンヘリの無事を確認しているうちに第二波の揺れが来ました。車に乗り込み逃げようとしていると、前年のチリ地震とは比較にならないすさまじさで、300メートル先にある松林を越えて津波がやってくるのが見えました。サイレンを鳴らしたパトカーが、我々が逃げようとする方向から逆走してきていました。そんな混乱の極みの中、渋滞している一般道は避けて、農道を脱輪しそうになりながら車を走らせ必死に逃げました。命からがら何とか逃げおおせましたが、自宅も田畑も津波の黒々とした濁流にのみこまれました。そればかりか、一緒に六郷アズーリファームを切り盛りしてきた弟も津波の犠牲になりました。

——悲嘆にくれる中、事業再開を考えたきっかけは

何だったのですか。

震災から1ヵ月後のことですが、ある大手外食チェーンから、イタリア料理に欠かせないトマトを育て、出荷して欲しいという依頼を受けました。費用として1億円を提供するということでしたが、4月7日に最大級の余震に襲われていたこともあり、相手にとってもお金をドブに捨てるような結果になるのではと心配し、当初は

お断りするつもりで

した。提案の内容は、養液栽培という日本では比較的新しい農法でした。塩害の農地再生には3～5年はかかりますが、その農法ではハウスを建設し、土は使わず、

野菜の成長に必要な肥料を水に溶かした培養液で栽培するのです。トマトの栽培経験がなかったので不安もありましたが、彼らが掲げる“地元との共存共栄”という精神に強く共感したこともあり、チャレンジすることにしました。



サラダホウレンソウの袋詰め作業の様子

次世代に引き継げる魅力あふれる農業を

——事業再開へ向け、具体的にはどのように進めていったのでしょうか。

農業を再開できずにいた近隣の農家10人を誘い、仙台市若林区の水田を借り受ける手筈を整え、農業委員の協力を仰ぐために奔走しました。農地転用申請の甲斐もあり、東日本大震災農業生産対策交付金の審査が最速で通りまして、震災3ヵ月後の6月には造成工事を始めることができました。コストをできるだけ低く抑えるため、ハウスは韓国から輸入しましたが、取

り扱い説明書がなく、唯一の設計図となったのは完成写真でした。そのせいもあり、組み立てには60日もかかってしまいました。12月にはハウスの試験運用を行い、年明けの2012年1月16日にトマトの植え付けを行いました。さあ、これからいよいよ収穫という4月に、爆弾低気圧に襲われて屋根が飛んだハウスもありましたが、5月には何とか最初の出荷に漕ぎ着けることができました。その後7月に、養液栽培を軸とする農業生産法人を起業し、「みちさき」と命名しました。

——財団の支援による資金は、どのように活用されているのでしょうか。



「みちさき」ブランドの袋に個包装されたサラダほうれん草（上）。財団の支援を利用して導入されたトマトの選果機



養液栽培されるトマト（上）。財団支援先の協働マネジメント（P33参照）の店舗「牡蠣鉄板 HASEKURA」でも使われている。（左から）協働マネジメントの松本圭介料理長、みちさき・菊地守社長、協働マネジメントの布施龍一社長、堀野真一店長



みちさきは、仙台銀行のバックアップで、4ヘクタールの土地を確保。2013年1月にはハウス3棟の起工式ができました。仙台銀行の紹介で、三菱商事復興支援財団にも出資頂き、感謝しています。今では、トマトのみならず、サラダほうれん草をはじめ葉物類やイチゴなども生産。財団の支援を活用し、各ハウスに包装・衛生管理設備、保冷庫を備える出荷施設を併設しました。これにより安全で効率的な青果物のお荷が可能になり、20名を新たに雇用することができました。

——今後の抱負を聞かせてください。

津波で何もかも流されてしまいました。しかし逆に言えば、可能性や選択肢が広がったのです。次の世代に引き継げる魅力あふれる農業をさらに考えていきたいですね。地域とのつながりを深めるため、週末には

朝市をはじめ、農業を学ぶ場の開催も検討中。将来的には、農業を核とした「テーマパーク」が夢です。農業による復興を実践し、10年、20年後の地域を明るい未来に導く「道先」、案内人の役割を果たしていきたいと思っています。

株式会社みちさき

設 立	2012年7月3日
所 在 地	宮城県仙台市宮城野区蒲生字細川63
従 業 員	39名
当財団からの投融資額	1億円
当財団の主なパートナー	仙台銀行

仙台市内の被災沿岸地域において大規模な水耕栽培を行う農業生産法人。国や宮城県、仙台市の後押しも受け、六次産業化にも取り組み、農業による地域復興を目指す。





併設の観光施設
『シャークミュージアム』

気仙沼観光の ゲートウェイを目指す

気仙沼産業センター

気仙沼魚市場に隣接していた、海鮮市場『海の市』の再建。日本で唯一のサメの博物館（『シャークミュージアム』）や『氷の水族館』に併設し、年間集客数100万人を超える観光施設として、市の観光拠点の一つとなっていました。土産などの物販店および飲食店15企業がテナントとして入居。同社従業員の雇用（10名程度）に加え、テナント企業における雇用機会提供（震災前レベル約120名）が期待されています。

気仙沼産業センター

設	立	1994年8月
所	在	地
従	業	員
当財団からの投融資額	5,000万円	
当財団の主なパートナー	気仙沼信用金庫	

海鮮市場『海の市』と『シャークミュージアム』の運営事業者。販路縮小に課題を抱える地元水産加工業者に販売機会を提供し、集客力の高い観光施設としての再生を目指す。



ゼライス株式会社

設	立	1941年10月29日
所	在	地
従	業	員
当財団からの投融資額	5,000万円	
当財団の主なパートナー	大和企業投資	

ゼラチンおよびコラーゲンの製造企業。被災した検査・分析部門の施設・機器の復旧を支援。検査分析部門の内製化により、品質保証体制を充実させ、さらなる拡販を目指す。

宮城県多賀城市に本社を置く、東北地方唯一のゼラチンおよびコラーゲンの製造企業。津波により被災した検査分析部門の施設・機器の復旧を支援しました。同社は食品素材・原料としてのゼラチン関連製品の製造販売のみならず、医薬・美容関係の分野にも製品を提供しています。品質保証体制の充実が必須となっている医薬・美容分野の製品を扱う同社にとって、検査分析部門の内製化は重要課題であり、本社工場全体の雇用維持につながります。

東北唯一の ゼラチンメーカー ゼライス



復旧した検査分析センター





7月オープンを目指して
新ホテルの建設が進む

新ホテルを拠点に地域活性化を 海楽荘

岩手県大船渡市碓石海岸で人気の民宿『海楽荘』を営む事業者へのホテル新規創業支援。新ホテルは5階建て70室、200人の宿泊が可能。建設地は、三陸自動車道大船渡碓石海岸ICと国道45号線が交差し、海に面した40mの高台に位置しています。当面は主に復興作業員の宿泊先として運営される計画ですが、中長期的には大船渡の観光拠点となることを目指しています。2014年7月オープン、開業に伴い30名が雇用される予定です。

株式会社海楽荘

設	立	2012年5月17日
所	在	地
従	業	員
当財団からの投融資額	5,000万円	
当財団の主なパートナー	岩手銀行	

岩手県大船渡市で民宿を営む事業者へのホテル新規創業支援。当面は復興作業員の宿泊先となる計画だが、中長期的には大船渡の観光拠点となることを目指す。



株式会社八木澤商店

設	立	1960年1月25日(創業1807年)
所	在	地
従	業	員
当財団からの投融資額	3,100万円	
当財団の主なパートナー	岩手銀行	

200年以上にわたり陸前高田市で醸造業を営んできた事業者。震災後、一関市に新設された工場への設備投資を財団は支援。再開後の課題となっていた生産拡大に乗り出す。

創業1807年(現社長は9代目)、200年以上にわたり陸前高田市でしょうゆ・みそなどの醸造業を営んできた八木澤商店を支援しています。津波は事務所や工場を直撃し、倉庫に貯蔵していた原料など全て流失する被害を受けました。しかし、しょうゆ造りの命である「もろみ」は研究用に預けていたものが奇跡的に残りました。同社は社員を解雇することなく2013年2月に同県一関市の新工場で操業を開始。さらに、三菱商事復興支援財団の支援を活用して工場に圧搾機械1台を追加で導入し、新工場再開後の大きな課題となっていた生産拡大に乗り出しました。この設備投資による生産能力拡大に合わせ2名の新規雇用が予定されています。

創業1807年、奇跡的に甦った 伝統の味の拡販を後押し 八木澤商店



再建された生産工場





鮮魚コーナー

地域の食文化を守り、 地元住民に愛されるスーパーに 駅前ストアー

気仙沼市内でスーパーマーケット『クリエみうら』を展開する事業者。2011年9月に、気仙沼と南三陸を結ぶ幹線の国道45号線沿いに階上店を再開。2013年11月には、自らが運営する松川前ショッピングセンター（敷地面積約2万8,000㎡。震災後市内最大規模）内に、「松川店」（店舗面積約1,800㎡）をオープンしました。気仙沼と岩手県一関市を結ぶ国道284号線沿いという交通の要所に位置する同店は、多くの雇用を生み出すとともに、地域の利便性向上に大きく寄与しています。

株式会社駅前ストアー

設	立	1973年3月23日
所	在	地 宮城県気仙沼市波路向原13番地1
従	業	員 88名
当財団からの投融資額		5,000万円
当財団の主なパートナー		気仙沼信用金庫

地元資本のスーパーマーケットの再建支援。新規出店で60名の雇用を創出。家電量販店やドラッグストアを併設した市内最大規模の商業施設を形成し、地域の利便性向上も狙う。

協働マネジメント株式会社

設	立	2012年11月
所	在	地 宮城県石巻市新境町1-2-5
従	業	員 11名
当財団からの投融資額		1,900万円
当財団の主なパートナー		石巻信用金庫

地場商品を活用した飲食店の創業支援。将来的には、飲食店を通じた地元食材の六次産業化を目指す。

石巻市内に、店内壁面に石巻の原風景である北上川のアシを使用するなどしたイタリアンレストラン「牡蠣鉄板 HASEKURA」を今春オープン。カキなど海産物のみならず、肉類から野菜まで地元産含め、東北各地から仕入れています。開業に伴い7名のスタッフを新規雇用し、震災後販路を失った一次産業生産者の多くの雇用を間接的に創出。将来的には、飲食店を通じた地元食材の六次産業化を目指しています。

石巻の食材を活かした イタリアンレストラン 協働マネジメント



地元の食材を鉄板で調理



宝来館本館

新しいふるさとづくりの 拠点となる宿に

宝来館

岩手県釜石市で旅館『宝来館』を経営する事業者を支援しています。最低限の補修だけ済ませ既に営業を再開している本館のリニューアルと、完全に流失した別館の再建を計画。料理人など5名の新規雇用を見込んでいます。2008年には、「グリーンツーリズム大賞」（主催：毎日新聞社）を受賞。地元農家や漁師と観光客との交流促進も目指しています。地元釜石市が誘致を進める2019年ラグビー・ワールドカップに向け、観光客を地元のワインでもてなすべく、ブドウを育てています。

有限会社宝来館

設	立	1988年7月8日
所	在	地 岩手県釜石市鶴住居町第20地割93-18
従	業	員 30名
当財団からの投融資額		2,000万円
当財団の主なパートナー		北日本銀行

釜石市の旅館再建支援。最低限の補修だけ済ませ営業を再開している本館のリニューアルと、完全に流失した別館の再建を計画。地元農家や漁師と観光客との交流促進も目指す。



ヨシエイ加工株式会社

設	立	1990年5月1日
所	在	地 宮城県気仙沼市潮見町2丁目78番地
従	業	員 34名
当財団からの投融資額		6,000万円
当財団の主なパートナー		気仙沼信用金庫

気仙沼市のフカヒレ加工事業者。津波で工場等を流失したが、高台に工場を再建し営業を再開。財団支援により財務基盤を強化し、生産拡大を目指す。

豊富な種類の水産物を扱う気仙沼でも、特に代表的名産として知られるフカヒレ。その加工を担うヨシエイ加工は、気仙沼で水揚げされるサメの買い付けにこだわり、トレーサビリティをしっかりと確保し、地元フカヒレのブランド化や地域経済の活性化に震災前から貢献してきました。東日本大震災により本社や工場が全壊する被害を受けながら、同社は気仙沼信用金庫などのバックアップを得て再建。三菱商事復興支援財団の支援により財務基盤を強化し、震災前よりさらに生産を拡大させる計画です。



気仙沼産 フカヒレブランドを守る ヨシエイ加工



フカヒレは一つ一つ手作業で丁寧に加工される



2隻あるマグロ漁船の
1隻、第十八善丸

塩竈のブランド維持にもつながる 漁業者への支援 村上商事

塩竈市で近海マグロ漁業や冷蔵保管業務を行う村上商事を支援しています。津波により施設や在庫に被害を受けたものの、被害が比較的少なかった漁業に特化して事業再開を果たし、震災以前と同様の雇用を維持してきました。支援を受け、漁業に不可欠なマグロ漁船のエンジン更新など船舶を整備・補強し、事業拡大を目指しています。同社は塩竈でも有数の水揚げを誇る漁業者であり、支援は雇用の安定化にとどまらず、日本有数のマグロ集結地である塩竈のブランド維持にもつながると期待されています。

有限会社村上商事

設	立	1979年10月23日
所	在	地
従	業	員
当財団からの投融資額		3,000万円
当財団の主なパートナー		岩手銀行

近海生マグロ漁業者の漁船の設備更新などへの支援。県や市から表彰を受けるなど、地域でも有数の生マグロ漁業者で、同社再建は塩釜港の活性化にもつながる。



農業生産法人株式会社GRA

設	立	2012年1月17日
所	在	地
従	業	員
当財団からの投融資額		5,000万円
当財団の主なパートナー		七十七銀行

震災後に起業した農業生産法人。財団資金はイチゴの通年栽培事業や新規就農支援事業に活用。IT技術を駆使したモデル事業を展開し、産地ブランド化を目指す。

宮城県山元町は、東日本大震災で甚大な被害を受けた地域の一つです。主要産業であるイチゴ栽培も、約130軒あった農園のほとんどが流されるという壊滅的な被害を受けました。GRAは同町の農業復興を目指して、地元農家の方を雇用し、IT技術を駆使した新たなイチゴ栽培に挑戦している企業です。当財団からの資金の一部を活用し、新たに通年栽培事業を立ち上げ、季節に左右されない雇用の拡大を図ります。また、新規就農希望者を支援するサポート事業も展開し、5年間で100名の新規就農者を生み出すことを目指しています。

ITを駆使した 新たなイチゴ栽培で農業復興へ GRA



イチゴの栽培





6月にオープンしたイオン関店の店舗にて。ロゴは陸前高田市の市花である椿をモチーフにしている
上：大植産のバジルを練り込んだパスタ

地域特産「気仙椿の油」を使用したパスタチェーン カメリアン・プロダクツサービス

陸前高田出身の事業者が、地域の特産である気仙椿の油を使用したパスタ店のチェーン展開を目指し、2013年10月に起業した企業への創業支援。2014年6月に一関に出店し、7月に陸前高田のイオンスーパーセンター内のフードコートに出店が内定しています。雇用規模は1店舗当たり7名（正社員2名、パート5名）を予定しています。

株式会社カメリアン・プロダクツサービス

設	立	2013年10月28日
在	地	岩手県陸前高田市米崎町字道の上69
従	業	員
		10名
当財団からの投融資額		3,000万円
当財団の主なパートナー		岩手銀行

陸前高田出身の事業者が、2013年10月に起業した企業。地域の特産である気仙椿の油を使用したパスタの飲食店のチェーン展開を目指す。



株式会社あんしん生活

設	立	2007年5月8日	
所	在	地	岩手県陸前高田市気仙町字湊201
従	業	員	26名
当財団からの投融資額			2,000万円
当財団の主なパートナー			気仙沼信用金庫

震災前はNPOとして惣菜加工を受注。震災後、元請け業者の廃業を受け、自社工場を建設し、海産物の揚げ物加工を本格開始。雇用を増やし、生産力の向上を目指す。

震災前は、高齢者を中心に36名を雇用して、惣菜加工業務をNPOとして請け負っていました。震災後、元請け業者の廃業を機に、陸前高田市唯一の水産加工団地内に自社工場を建設。地元海産物を利用したカキフライや海鮮かき揚げなどの冷凍加工品の製造販売を本格的に開始しました。三菱商事復興支援財団の支援を活用し、生産力の向上を目指して50名体制まで雇用を増やすことを計画しています。

揚げ物を通じて地元海産物をPR あんしん生活



海鮮かき揚げの製造風景



新天地で ホテルを再起 仕一屋

福島県双葉郡富岡町でホテルを営業していた事業者が、福島第一原子力発電所 15 キロメートル圏内にあたる同町では営業再開が困難なため、いわき市でホテル事業を再開。13 名（正社員 3 名、パート 10 名）の新たな雇用を予定しています。新ホテルは、9 階建て 71 室（シングル 51 室、ツイン 19 室、バリアフリー 1 室、敷地面積 428.86㎡）。工事は既に始まり、2014 年 8 月のオープンを目指しています。



ホテルの建設イメージ

株式会社 什一屋（じゅういちや）

設	立	1991 年 11 月 25 日
所	在	地
従	業	員
当財団からの投融資額	5,000 万円	
当財団の主なパートナー	あぶくま信用金庫	

震災前、福島県富岡町でホテルを営業していた事業者。原発事故の影響により、富岡町では営業再開が困難なため、いわき市で事業を再開。2014 年 8 月のオープンを目指す。



ホテルの建設現場



株式会社長根商店

設	立	1987 年 4 月 1 日
所	在	地
従	業	員
当財団からの投融資額	3,000 万円	
当財団の主なパートナー	岩手銀行、東日本大震災事業者再生支援機構	

キノコや山菜の加工販売を行う事業者の工場移転への支援。移転に伴い 3 名が雇用される予定。岩手県内のキノコや山菜を買い支え、地元経済への貢献を目指す。

キノコや山菜の加工・販売を行う事業者の工場移転・拡張費用に対する支援。工場移転に伴い、新たに 3 名が雇用される予定です。岩手県内のキノコや山菜を買い支え、採集者の収入という形で地元経済に貢献していくことを目指しています。震災前は収益の大半をキノコ加工が占めていましたが、震災後に事業を多角化し、カット野菜の加工や惣菜の OEM 生産、新しいキノコの施設栽培を開始しました。

地場産業保持のため キノコや山菜を買い支え 長根商店



きのこや山菜を惣菜に加工





「たろう観光ホテル」の
松本勇毅社長（左）と

三陸復活に向け、 産業復興の礎となることを期待

北日本銀行 営業統括部 地域事業支援室 復興支援チーム 松本 孝直 調査役

弊 行復興支援チームは釜石に駐在し三陸沿岸部で、発足当初から「お客様が何を本当に必要としているのか」を念頭に寄り添う気持ちで訪問活動を繰り返し行っております。被災事業者が抱える課題は再建資金の他、販売先の確保、求職者不足、土地の問題等多岐にわたっており、未だ本格復旧していない事業者が大勢いる中、一日でも早く復興へ向かえるよう、外部機関

と連携を図りながら課題解決への支援に取り組んでおります。

こうした中、三菱商事復興支援財団からの支援により再開への第一歩をスタート出来た事業者からは大変深く感謝頂いており、弊行も同様に感謝している次第です。今後も財団の支援が「三陸復活」に向けた産業復興、雇用創出の礎となることを期待しております。

Our Partners

パートナーからのメッセージ

三菱商事復興支援財団が取り組む「産業復興・雇用創出支援」は、地元金融機関などからの情報を起点にしています。そんなパートナーからの声を紹介します。



当 金庫は、震災により12店舗中9店舗の閉鎖を余儀なくされましたが、現在は10店舗で通常営業を再開しております。しかし、地域の基幹産業である水産業・水産加工業は、震災の影響が未だ続いており、多くの企業は従前の5割～8割程度の売上状況であることが最大の課題となっております。当金庫は、ビジネスマッチへの誘致や外部専門機関との連携によりお客様の課題解決に取り組んでいるところであります。その中で今回の三菱商事復興支援財団からの支援は、地域の最大の課題である販路支援と、雇用創出、そして石巻ブランドの確立という当地域の復興にとって大変効果的かつ意義あるものとなりました。引き続き貴財団との連携により復興支援に尽力して参ります。

「協働マネジメント」の調印式にて
(後列左から3人目)



地域の最大の課題である 販路支援に尽力していく

石巻信用金庫 法人営業部 川井 隆弘 部長

将来の子供たちへの「ふるさと」づくり

復興庁 宮城復興局気仙沼支所 松舘 豊久 支所長

行 政は住民の安全と安心や地域の復興に向け、全力で取り組んでいるところです。また、住宅や道路、河川、港湾の復旧などインフラ整備にとどまらず、被災者のケアも視野に入れ活動を進めています。

かつての日本の民間企業は利益を追求しがちでしたが、東日本大震災では数多くの企業が被災地支援のために立ち上がりました。三菱商事では財

団を設立し、奨学金での人材育成や地域産業への支援などを行っています。日本の企業も成熟期に入ったという思いと力強さを感じます。

被災地域が復興への強い意志と行動力で着実に新しい東北を創造し、そこで暮らす子供たちにとって楽しく活気にあふれた「ふるさと」の誕生のため、官民が協調し復興を加速化することが本当に重要だと思っています。



発電研究を体験する子どもたち

福島
南相馬市

一般社団法人 福島復興ソーラー・アグリ体験交流の会

2013年5月9日、『南相馬ソーラー・アグリパーク』がオープンしました。オープニングセレモニーには120名を超える関係者が出席し、体験学習を通した子どもたちの成長支援事業を開始しました。地元小学校の吹奏楽部の子どもたちが元気いっぱいの演奏を披露し、新しい出発を分かち合いました。多数のメディアが詰めかけ、NHKや地元放送局で取り上げられたほか、読売新聞全国版1面に掲載されました。オープンと同時に、財団が支援する体験学習プログラム『グリーンアカデミー』が、地元小学生を招いて開講。子どもたちは太陽光発電所でスタッフとともに巡視点検を体験しました。グリーンアカデミーにはこの1年間で南相馬市の小中学生3,300人のうち800人以上が参加しました。また、植物工場からは、地域のスーパーマーケットに向けてサラダ菜などの野菜が出荷されています。

2012年度 産業復興支援先トピックス



2012年度から始まった「産業復興・雇用創出支援」。
1年が経過し、支援先では事業の再開や拡大など、
復興の動きが徐々に進んでいます。

岩手
大船渡市

森下水産株式会社

2013年11月25日、森下水産は新工場建設予定地で地鎮祭を開催しました。新工場の建設によって生産体制を拡充し、雇用規模を震災前の水準まで戻して、数年内に新たに150名を雇用する計画です。焼魚や煮魚に加えて、生食など消費者向け商品のラインナップを充実させ、対米国HACCP認定工場の強みを活かし海外市場への展開も目指しています。



地鎮祭で玉串を奉納する様子



キャピタルホテル1000 外観



キャピタルホテル1000 室内の様子

キャピタルホテル1000 株式会社

岩手
陸前高田市

2013年10月25日、落成祝賀会を開催。陸前高田市の戸羽市長をはじめ、関係者約160名が出席しました。市長は「旧ホテルは市の迎賓館とも呼ばれ、市民の思い出が詰まった特別な場所でした。復興に向けて大きく一歩を踏み出せます」と祝辞を述べ、キャピタルホテル1000の畠山社長は「陸前高田市民の心のともしびとなるよう、一生懸命頑張りたい」と決意を示しました。その後、テープカットで祝い、地元中学生や保育園児が郷土芸能を披露して花を添えました。完成したホテルは、敷地面積約3,000㎡、地上3階建て鉄骨造りで40室（全室ツインルーム）。収容定員160名の宴会場や結婚式場、大浴場も備えています。11月1日、グランドオープンしました。



岩手
大槌町

株式会社伊藤商店

2013年11月28日、伊藤商店は冷蔵・加工施設の竣工式を開催しました。伊藤商店は震災前、冷蔵8,000トン、凍結60トンの施設を保有していましたが、新しい冷蔵施設が稼働することで冷蔵7,800トン、凍結120トンとなり、水産加工会社への安定的な原料出荷が可能となりました。更に、機械化された加工場を新設し、従業員の負担を軽減した効率的な出荷や、原料となる魚種の増加を実現しました。約15名の従業員を新規雇用し、地元の水産物のブランド化・高付加価値化を図るべく、事業を展開していく計画です。



竣工式の様子



本格稼働した冷蔵施設。冷蔵庫内には仕入れた多数の鮮魚が保管されている



株式会社相馬の里

2013年12月10日、相馬の里はサービス付高齢者向け住宅の竣工式を開催しました。2014年1月6日からサービスを開始しています。総床面積706.16㎡、居室数20室で、敷地内にデイサービスセンターを併設。近隣の医療機関へのアクセスも良く、南相馬市で震災後初のサービス付き高齢者向け住宅として、高齢者が安心して暮らせる住環境の実現を目指しています。また12名の新たな雇用を計画しています。



建物外観



株式会社ラポールヘア・グループ

2013年度、仙台市（富沢店）、名取市（名取手倉田店）に新店舗を出店しました。石巻店では新たにネイルサービスを開始しています。また早瀬社長は、「Japan Venture Award 2013」（中小企業基盤整備機構主催）で東日本大震災復興賞を、また「人間力大賞」（日本青年会議所主催）の経済産業大臣奨励賞と復興創造特別賞を受賞しました。



気仙沼ケーブルネットワーク株式会社



新局舎



2014年1月28日、新局舎となる気仙沼市情報通信基盤センター施設の開所式が行われ、震災で被災した施設と幹線ケーブルなど関連設備の復旧を祝いました。開所式で菅原市長は、「市民と情報を共有しながら、いっしょに復興に向けた町づくりを進めたい」と挨拶。関係者でテープカットを行い、施設の完成を喜びました。



安全祈願祭で船舶修繕ドック（長さ170m、幅36m、深さ8m）に海水が注入される様子



株式会社ヤマニシ



2014年1月24日、船舶修繕設備の復旧工事を終え、安全祈願祭を行いました。2012年8月に再開した新造船部門と合わせ、事業の両輪が揃いました。新ドックの幅は以前より6m広く、最大1万8,000トン級の船舶に対応できます。修繕設備が整ったことで、新年度以降は震災前とほぼ同水準の売上高を目指します。現在は協力会社を含め約250人が働いていますが、仕事量に合わせ350～400人に増やす計画です。安全祈願祭には約50人が出席。長倉社長は「多くの支援で今日を迎えられた。地元雇用を増やし、地場産業の振興に繋げていきたい」と述べました。

社会福祉法人 南三陸町社会福祉協議会



2014年1月24日、南三陸町戸倉地区のデイサービスセンターの落成式典を開催しました。南三陸町社会福祉協議会の阿部会長は、「少子高齢化は避けられず、施設の重要性は大きい。親しまれ、愛されるよう職員一丸で取り組みます」と挨拶しました。佐藤町長は「高齢化社会の重要な基盤となります。利用者と家族が完成を切望していました」と述べました。同施設は、訓練室や食事・談話室、浴室などを備え、利用定員は9人。震災後、戸倉地区の利用者は歌津地区の施設まで送迎車で約1時間かけて通所しており、負担になっていました。



南三陸町社協と戸倉の施設で働くスタッフ



平屋の鉄骨造りで敷地面積約740㎡、延床面積184㎡。室内は日あたりが良く、明るい内装となっている



株式会社たろう観光ホテル

2013年3月8日、たろう観光ホテルは宮古市との間で旧ホテルの譲渡契約を締結、旧ホテルは市へと明け渡され、来年3月の震災遺構施設としてのオープンに向けて修繕が開始されました。宮古市田老地区中心部と太平洋を望む高台に新たに建設中の『たろう庵』は、今年1月に着工し、8月のオープンを目指しています。田老地区中心部の宿泊施設再建は初めてです。宿泊棟は鉄骨4階建てと木造2階建てで、敷地面積約2,800㎡、延床面積は約1,090㎡。客室13室、定員は52人。個室会食場7部屋や貸し切り展望風呂を備えています。



客室の完成イメージ図



プラント外観

**気仙沼地域エネルギー開発
株式会社**

2013年7月25日、安全祈願祭を実施しました。行政の担当者や工事関係者ら約60名が参加しました。気仙沼地域エネルギー開発の高橋社長は、「森林のエネルギーを復興のエネルギーに変えようと、この事業は始まりました。木材収集やプラント運営など課題はありますが、必ず成功させるという強い思いで進んでいきたい」と決意を語りました。気仙沼市の菅原市長は、「再生可能エネルギーは市の復興計画の柱の一つであり、この事業はそれを実践するプロジェクト。チャレンジングな取り組みであり、市民の期待も大きい」と祝辞を述べました。2014年2月にはプラントがドイツから到着。今夏には本格稼働される予定です。

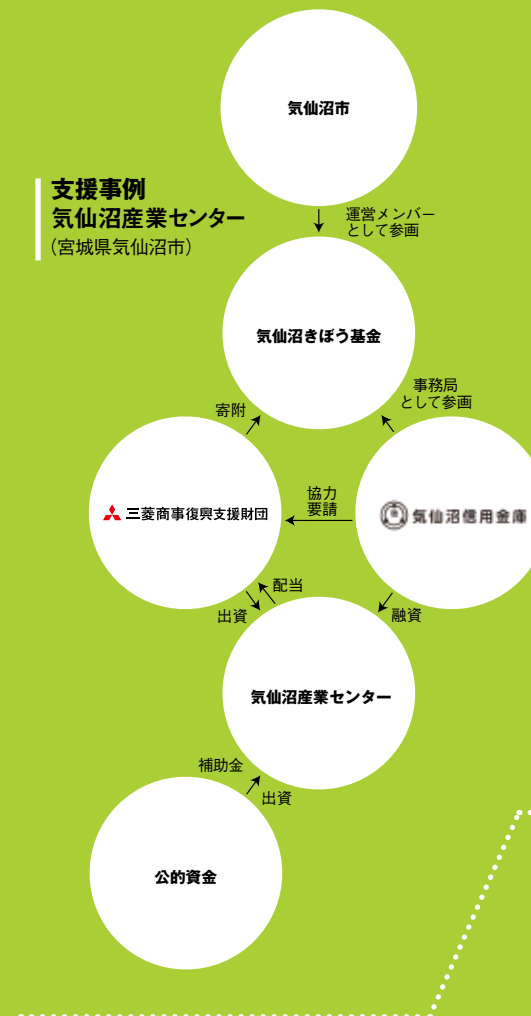


「なぜ寄附ではなく、出資や融資なのですか？」

そう問われることが少なくないのですが、それは「返さなくてはいけないお金」であるが故に生まれる適度な緊張感が、事業の継続を支えていくことにつながると考えたからです。利益を目的とした投資とは一線を画し、事業が軌道に乗って利益を出すまで配当は猶予します。配当が実現した場合にも、配当分は財団の内部には留保せず、地元自治体や基金などに寄附。復興資金が被災地で循環する仕組みをつくり、地域経済のさらなる自立を促すことを目指しています。

**産業復興支援先同士の
新たな動き**

協働マネジメント (P33 参照) のイタリアンレストラン「牡蠣鉄板 HASEKURA」では、みちさき (P25 参照) で生産されるトマトとイチゴを仕入れ、さらなる取扱品目の拡大も検討しています。



Facts & Figures

2013年度活動データ

学生支援奨学金

	2013年度
性 別	人 数
男 子	514
女 子	482

	2013年度
学 年	人 数
大学1年	165
大学2年	215
大学3年	247
大学4年	264
大学5年※	11
大学6年※	12
大学院2年	35
短大1年	16
短大2年	27
短大3年	4
合 計	996名

※ 医歯薬学部生

	2013年度	
都道府県別	学校数	人 数
北海道	7	17
青 森	3	3
岩 手	8	80
宮 城	17	251
秋 田	3	12
山 形	4	29
福 島	8	39
茨 城	5	27
栃 木	6	30
群 馬	3	9
埼 玉	14	68
千 葉	10	29
東 京	59	269
神奈川	20	69
新 潟	2	12
石 川	2	4
山 梨	2	2
長 野	1	1
静 岡	1	2
愛 知	2	4
三 重	1	3
京 都	4	25
大 阪	2	6
兵 庫	1	1
香 川	1	1
沖 縄	1	3
	187校	996名

助成先一覧

支 援 先（計48件）	
一般社団法人日本カーシェアリング協会	一般社団法人ボランティアステーションin気仙沼
一般社団法人キャンナス東北	NPO 法人ミラツク
NPO 法人アスイク	NPO 法人 笑顔のお手伝い
特定非営利活動法人 土佐の森・救援隊	NPO 法人 浦戸アイランド倶楽部
認定NPO 法人 BHN テレコム支援協議会	すばらしい歌津をつくる協議会
特定非営利活動法人 遠野まごころネット	一般社団法人ジェスペール
一般社団法人 東北お遍路プロジェクト	雄勝まちづくり協会
ワタママスマイル	女川町自治子ども会
Cocoro Care for Children	認定NPO 法人 日本ハビタット協会
一般社団法人ISHINOMAKI2.0	朝日座を楽しむ会
NPO 法人かまいしリンク	特定非営利活動法人 笑顔プロジェクト
一般社団法人 コミュニティスペースうみねこ	一般社団法人Re Roots
一般社団法人つむぎや	一般社団法人アーキエイド
特定非営利活動法人とめタウンネット	特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス
ろっこう医療生活協同組合	ならは盛り上げ隊
NPO 法人相馬はらがま朝市クラブ	GIFTHOPE
一般社団法人スペースウェザー協会	NPO 法人 FUKUSHIMAいのちの水
みなみそうまさいがいエフエム	TEDIC
一般社団法人復興応援団	一般社団法人 RSA JAPAN
特定非営利活動法人いわて発達障害サポートセンターええ町づくり隊	立教大学 東日本大震災復興支援プロジェクト
特定非営利活動法人くらしのサポーターズ	認定NPO 法人フローレンス
一般社団法人くるり	特定非営利活動法人ふよう土2100
特定非営利活動法人移動支援 Rera	南三陸復興ダコの会
認定NPO 法人 ピープルズ・ホープ・ジャパン	一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター

2013 年度

支 援 先	概 要	投融資額 (百万円)
気仙沼産業センター (宮城県気仙沼市)	震災以前から気仙沼市の観光拠点だった、海鮮市場「海の市」やシャークミュージアムの再建支援。	50
ゼライス (宮城県多賀城市)	東北唯一のゼラチンメーカー。医療・美容分野で不可欠な検査・分析センターの復旧を支援。	50
三浦商店 (岩手県九戸郡洋野町)	三陸沖で獲れるサバを使い、こだわりの製法で手づくりするしめさばなどが人気を集める水産加工業者への支援。	20
海楽荘 (岩手県大船渡市)	地元・基石海岸で民宿を営み、将来的に新たな観光拠点となることを目指しホテルを創業する事業者への支援。	50
八木澤商店 (岩手県陸前高田市)	200 年以上にわたり陸前高田市で醸造業を営んできた老舗。新工場の生産設備拡充を支援。	31
駅前ストアー (宮城県気仙沼市)	地元資本のスーパーマーケットの新規出店を支援。雇用創出だけでなく、地域住民の利便性向上にも寄与。	50
協働マネジメント (宮城県石巻市)	地場産品を活用した、地産地消型イタリアンレストラン「牡蠣鉄板 HASEKURA」の創業支援。	19
みちさき (宮城県仙台市)	塩害の農地に大規模水耕栽培ハウスを建設し、新農法と厳しい衛生管理で、先進的な農業モデルの確立を目指す農業生産法人への支援。	100
キャニオンワークス (福島県双葉郡浪江町)	福島第一原発の警戒区域内で被災した縫製事業者の、新天地・いわき市での工場新設を支援。	50
宝来館 (岩手県釜石市)	被災した本館のリニューアルと、完全に流失した別館の再建を支援。	20
ヨシエイ加工 (宮城県気仙沼市)	フカヒレが代表的名産として知られる気仙沼で、地元で水揚げされるフカヒレにこだわり加工事業を展開する事業者の生産拡大を支援。	60
村上商事 (宮城県塩竈市)	日本有数のマグロ集結地である塩竈市で、有数のマグロ水揚げ量を誇る漁業者を支援。	30
GRA (宮城県亘理郡山元町)	多くのイチゴ農家が壊滅的な被害を受けた山元町で、地元農家を雇用し、イチゴの産地ブランド化に取り組む農業生産法人を支援。	50
カメラアン・プロダクツサービス (岩手県陸前高田市)	特産品の気仙椿の油を使用したパスタ店を創業して、チェーン展開を目指す地元出身の事業者を支援。	30
あんしん生活 (岩手県陸前高田市)	地元海産物を使った揚げ物加工に取り組む惣菜加工業者の雇用拡大を支援。	20
什一屋 (福島県双葉郡富岡町)	福島原発に近い富岡町のホテル事業者の、いわき市での新ホテル建設を支援。	50
長根商店 (岩手県九戸郡洋野町)	岩手県内のキノコや山菜を買い支え、地元経済への貢献を目指す事業者の、加工工場移転・拡張を支援。	30
2013 年度合計 (計 17 件)		710

2012 年度

支 援 先	概 要	投融資額 (百万円)
キャピタルホテル 1000 (岩手県陸前高田市)	気仙沼信用金庫との協働により、津波により全壊したホテルの再建を支援。	100
ヤマニシ (宮城県石巻市)	東北最大級の造船所に対する支援。国が設立した「東日本大震災事業者再生支援機構」や地元金融機関から総額 100 億円規模の金融支援が実行されている。	100
ラポールヘア・グループ (宮城県石巻市)	被災地域的美容師に働く場を提供することを目的に起業した美容室チェーンへの支援。	40
南相馬ソーラー・アグリパーク (福島県南相馬市)	太陽光発電所と植物工場を利用した、子どもたちの職業体験プログラムへの支援。	30
南三陸町社会福祉協議会 (宮城県南三陸町)	津波により全壊したデイサービスの再建支援。町内に 2 か所の仮設デイサービスを建設する予定。	22
三陸飼料 (宮城県気仙沼市)	気仙沼地域の水産加工業者から出る魚のアラなどを原料として、畜産飼料を製造する事業者に対する支援。	100
気仙沼ケーブルネットワーク (宮城県気仙沼市)	気仙沼市のケーブルテレビ事業再建への支援。	50
気仙沼地域エネルギー開発 (宮城県気仙沼市)	気仙沼市における木質バイオマスを利用した熱・電併給事業への支援。	100
大洋産業 (岩手県大船渡市)	大船渡市発祥の水産加工食品メーカー。津波により全壊した工場の再建支援。	100
伊藤商店 (岩手県大槌町)	釜石市に本社を置く水産加工業者の冷蔵施設再建支援。	50
相馬の里 (福島県南相馬市)	南相馬市におけるデイサービス併設型高齢者住宅の新設支援。	30
たろう観光ホテル (岩手県宮古市)	津波で壊滅的被害を受けたホテルの高台での再建支援。	40
アップルファーム (宮城県仙台市)	仙台市における障がい者雇用飲食サービス事業への支援。	10
森下水産 (岩手県大船渡市)	大船渡市の水産加工業者の新工場建設支援。	50
2012 年度合計 (計 14 件)		822

2013年度 財務報告

貸借対照表 2014年 3月 31 日現在

公益財団法人 三菱商事復興支援財団 (単位:円)

	当年度 2014年3月31日	前年度 2013年3月31日	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	55,315,851	187,117,223	△ 131,801,372
未収金	2,202,861	1,361,172	841,689
前払金	578,771	705,411	△ 126,640
流動資産合計	58,097,483	189,183,806	△ 131,086,323
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
奨学金積立資産	4,080,526	0	4,080,526
出資金積立資産	179,766,922	0	179,766,922
出資金	1,150,000,000	550,000,000	600,000,000
長期貸付金	152,000,000	152,000,000	0
特定資産合計	1,485,847,448	702,000,000	783,847,448
(2) その他固定資産			
建物附属設備	1,046,083	1,166,800	△ 120,717
什器備品	856,959	1,165,975	△ 309,016
ソフトウェア	2,896,442	3,889,610	△ 993,168
敷金	408,000	408,000	0
長期未収収益	806,575	0	806,575
その他固定資産合計	6,014,059	6,630,385	△ 616,326
固定資産合計	1,491,861,507	708,630,385	783,231,122
資産合計	1,549,958,990	897,814,191	652,144,799
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	3,117,387	3,364,869	△ 247,482
預り金	0	36,276	△ 36,276
流動負債合計	3,117,387	3,401,145	△ 283,758
負債合計	3,117,387	3,401,145	△ 283,758
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	1,485,847,448	588,457,394	897,390,054
指定正味財産合計	1,485,847,448	588,457,394	897,390,054
(うち特定資産への充当額)	(1,485,847,448)	(588,457,394)	(897,390,054)
2. 一般正味財産	60,994,155	305,955,652	△ 244,961,497
(うち特定資産への充当額)	(0)	(113,542,606)	(△ 113,542,606)
正味財産合計	1,546,841,603	894,413,046	652,428,557
負債及び正味財産合計	1,549,958,990	897,814,191	652,144,799

三菱商事復興支援財団の概要 2014年 7月 1 日時点

名 称 公益財団法人 三菱商事復興支援財団

設立目的 東日本大震災において被災した地域の復興に寄与することを目的とする

事業内容 1. 奨学金の給付
2. 団体（NPO 法人や社会福祉法人など）に対する助成金の給付
3. その他、産業復興・雇用創出などに資する事業

役 員 会長
小林 健 （三菱商事 代表取締役社長）

副会長
廣田 康人 （三菱商事 常務執行役員 コーポレート担当役員）

代表理事
野島 嘉之 （三菱商事 環境・CSR 推進部長）

理事
和田 勝秋 （一般社団法人 日英協会 事務局長）
足達 英一郎（日本総合研究所 理事）
上野 征夫 （ドリームインキュベータ 取締役）

評議員
廣本 裕一 （三菱商事 執行役員 産業金融事業本部長）
末吉 竹二郎（国連環境計画 金融イニシアチブ特別顧問）
鬼頭 宏 （上智大学教授）

監事
増 一行 （三菱商事 執行役員 主計部長）
藤間 秋男 （公認会計士）

サ イ ト <http://www.mitsubishicorp-foundation.org/>

所 在 地 〒100-8086 東京都千代田区丸の内2-3-1
03-3210-9770（代）

〔気仙沼事務所〕
〒988-0017 宮城県気仙沼市南町2-1-30
0226-24-6170





希望のいしずえ

